



The Max Planck Center Seminar Series

演者： 西川伸一 博士
生命誌研究館顧問、NPO AASJ 代表

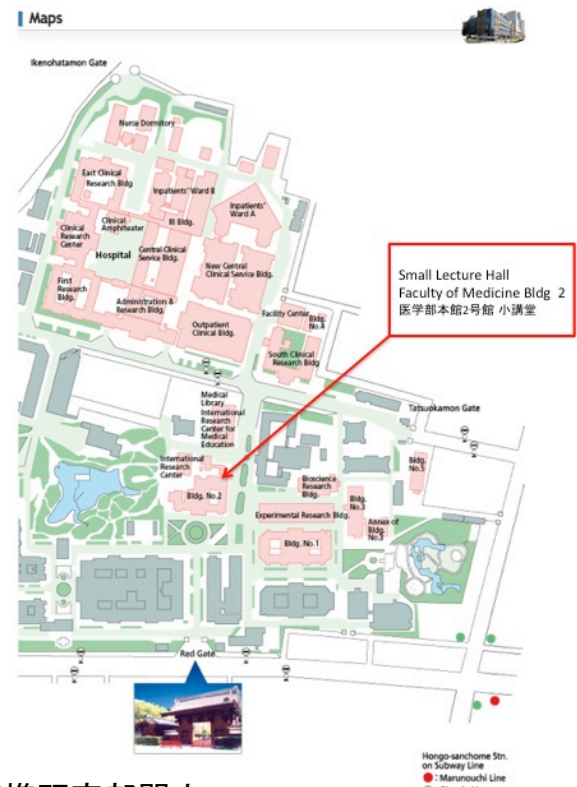


**演題： 「ダーウィンが来た：
存在しないものの因果性についての科学の始まり」**

西川伸一博士は、京都大学医学部にて1973年にMD、1987年にPh.Dを取得されました。1980年に、Humboldt Research Fellowshipを受けて、当時ケルン大学に所属していたKlaus Rajewsky先生の研究室に留学されました。過去数年の間、西川先生は、理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター 副センター長、財団法人先端医療振興財団 理事を務められました。西川先生は、血液幹細胞や色素細胞をモデルに幹細胞の発生を研究してこられましたが、2013年3月から完全に科学研究から引退され、患者さんの側に立つ専門家としての活動をはじめておられます。先生は現在21世紀を担う若者の啓発にも力を入れておられ、17世紀近代科学が誕生して以来の歴史を振り返りながら、新しい科学のあり方について特に若者に向かって講義を続けておられます。

日時： 平成26年1月16日(木)
午後4時30分～5時30分

**場所： 東京大学 大学院医学系研究科
医学部2号館小講堂
〒113-8654 文京区本郷7-3-1**



連絡先： 東京大学 生産技術研究所 炎症・免疫制御学社会連携研究部門内、
Max Planck - The University of Tokyo Center for Integrative Inflammation
* 本センターは平成26年1月より発足します
TEL: 03-5452-6491